

今回は、大宮区の芝川小学校の取組を御紹介します。

人とのつながり、人との関わりを大切にする子どもの育成に取り組んでいます。



味わい深いホタルの光

ホタルが灯す地域の輪

芝川小学校では、豊かな自然環境を活かし、昭和54年から、ホタルの活動を取り入れた教育活動を行っています。40年以上経た現在でも、ホタルの飼育開始にあたり、お力添えいただいた関係者の皆様の思いが受け継がれており、学校と地域をつなぐ役割を担っています。

ホタルの飼育は、SDGs教育の一環として、5、6年生で編成される環境委員会が中心となっています。現在は、児童、保護者を対象に癒しの輝きを鑑賞する機会を設けています。

コロナ禍以前に実施していた地域の方々をお招きしての「夜のホタル観賞会」の実施を目指しております。

地域の力で動物の飼育

動物を飼育する学校が減少する中、芝川小学校は、5頭のヤギを飼育しています。地域の方々、餌やりや散歩、小屋の掃除をしてくれています。毎朝のように、散歩に来る地域の方や、畑で作った野菜を持ってきてくれる方、近くの幼稚園や保育園に通う子どもたち、近隣の施設に通うご高齢の方々が、ヤギに会いにやってきます。そして、芝川小学校の児童がたくさんの人々と触れ合い、コミュニケーションが生まれます。

児童の情操教育だけでなく、地域に開かれた学校づくりにヤギが一役を担っています。



学校と地域・人と人をつなぐヤギ

地域と連携・協働した体験活動

学校から徒歩で約15分、見沼区中川の静かな住宅地に古寺（円蔵院：えんそういん）があります。3年生の校外学習では、住職さんから地域の歴史や人々の暮らしの移り変わりなどについてのお話を聞くことができます。また、この時は特別に樹木の美しい院内をすみずみまで開放してくれました。

また、チャレンジスクールでは、本堂の一室にある炉を切った茶室で茶道の体験をしました。実体験を通して、茶道（表千家）の歴史と作法を学ぶ機会となり、一人ひとりいただくお点前では、茶室内が何とも言えない緊張感に包まれました。



住職さんからの貴重な講話

芝川小学校では、地域の方の協力のもと、様々な体験活動が行われています。豊かな自然環境の中で、子どもたちは、愛情を感じ、豊かな心がはぐくまれていることが伺えます。